

序

この報告書は、（公財）中部産業・労働政策研究会が第9期（2019年9月～2020年8月）に行なった年度調査研究「働き方改革の進行がホワイトカラーのコミュニケーションに与える影響」についてまとめたものです。

昨今「働き方改革」が叫ばれており、組織のミッション達成のためには、上司・部下間の確実な意志疎通をはかって効率的に業務遂行することが、益々重要になってきています。しかし現状は、働く場所や時間の柔軟性の拡大等の影響もあり、「職場コミュニケーションが以前に比べて希薄になってきている」と思われる調査結果もあります。

そこで本調査研究では、従業員の意識や職場環境の実態等を調査し、働き方改革の現状や課題の把握を通して、これからのホワイトカラーのコミュニケーションがどうあるべきかを考察し、今後の方向性や取り組みの留意点等を提言することを目的といたしました。本報告書が各企業の労使の方々にとって、これからの働き方の議論や対策検討の際の一助になれば幸いです。

報告書の作成にあたっては、研究主査を務めていただいた南山大学の安藤史江教授、東京都立大学の高尾義明教授に多大なるご尽力をいただきました。また、調査にあたっては、中部地区の賛助会員企業労使からなる「専門委員会」での活発な議論や貴重な助言をはじめ、アンケートの回答に際しても多数の方々にご協力をいただきました。この場をお借りして皆さまに心から御礼申し上げます。

2021年3月

公益財団法人 中部産業・労働政策研究会
理事長 鶴岡 光行